



西中だより

令和3年10月18日(月)
西中学校だより 発行 松田昌樹

学校教育目標

「知識を磨き、豊かな心と
たくましい体を持った生徒
の育成」

I はじめに

本年5月27日(木)に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」には、本校の3年生120名が参加しました。昨年度は全国一斉休校により中止となったため、本調査は2年ぶり13回目の実施となり、本年度は「国語」・「数学」の2教科が調査対象となりました。また、これまでと同様に、生徒の学習習慣や生活の諸側面に関する調査(アンケート)も同時に行われました。

この度、調査結果の分析がまとまりましたのでその概要をお知らせし、ホームページにも掲載いたします。また、調査結果の分析をもとに、課題点や改善すべき点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力をはぐくむことができるよう、引き続き授業改善に取り組んでまいります。

II 本校の状況(平均正答率でみた本校の状況)

	国語	数学
全国平均との比較	○	○
県平均との比較	=	○

本校の平均正答率は、数学においては全国・県平均を上回る結果でした。また、国語は、全国平均を上回り、県平均と同程度の正答率でした。

*○は上回っている、=は同じ、△は下回っている

III 教科ごとの状況

【国語】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(14問中2問)

- ・意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。
(書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。)
- ・意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く。
(書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。)

△正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)下回った設問(14問中0問)

- ・なし

○全国・県平均と同様であるが、正答率が低かった設問

- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。

◇今後の取組

- ・授業の中で多くの文章や作品に触れ、文章の叙述に対する意識を高めさせ、それについて自分がどう考えたかを言語化する場面をより多く設定していく。
- ・授業内で自分の考えをもとに文章を書く機会を多く持ち、それを推敲し複数回提出するような課題の出し方の工夫により、自分の文章をより客観的に捉える力をつけられるような指導を行う。

【数学】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(16問中7問)

- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。
- ・関数の意味を理解している。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。

△正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)下回った設問(16問中2問)

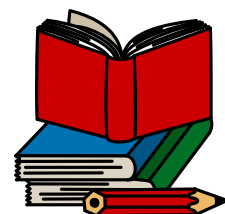
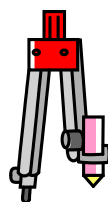
- ・整式の加法と減法の計算ができる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができる。

○全国・県平均を上回っているが正答率の低かった設問

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

◇今後の取組

- ・整式の加法と減法の計算では、基本的な計算は身につけているものの分配法則での符号決定が曖昧な生徒が多かった。負の数の乗法の意味を復習・確認しながら、計算問題と結びつけて理解させていきたい。また、基本的な計算を反復練習して学力の定着につなげていきたい。
- ・統計分野において、資料やグラフを適切に読み取ることはできるが、中央値・最頻値・相対度数などの言葉の意味を理解している生徒が少なかった。情報を整理するために、データの傾向を捉えて的確に分析できるようにしたい。そのために、授業や課題を通して言葉の意味等の理解を深め、日常生活や社会の事象を考察することで適切な用語を使用して資料を解析する力をつけていきたい。



【生徒質問紙調査】

全国学力・学習状況調査では、各教科の学力調査と同時に、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する質問紙調査（アンケート調査）も行われています。本年度は69問の設問がありましたが、本校3年生の特徴的な部分を以下に示してあります。

○生活習慣・自分自身について

- 本校生徒の95%が「毎日同じくらいの時刻に起きている」、87%が「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答しており、全国・県平均と比較して規則正しい生活をしている生徒の割合が5～10%程度高い。
- 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を5%程度上回っている。

○学校生活について

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を5%以上上回っている。
- △「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」と答えた生徒の割合は、全国平均を約5%、県平均を約10%下回っている。

○学校での学習等について

- 国語の勉強が「好き」「大切だ」「よくわかる」と回答した生徒の割合は全国・県平均を5%～10%程度上回っている。
- 「数学の勉強は大切だと思う」「数学の授業で学習したことは将来社会に出たときに役立つ」「数学で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を10%～15%程度上回っている。
- 「英語の授業が好き」「英語の授業で、話したり書いたりして、自分の考えや気持ちを伝え合うことができている」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を5%程度上回る。
- △「授業で、週に1回以上ICT機器を使用した」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を10%～15%下回る。

○家庭学習・読書習慣について

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は71%と全国・県を5%～10%上回っており、平日2時間以上学習する生徒の割合も全国・県平均を15%程度上回っている。

○その他

- △新型コロナウイルスの感染拡大で、臨時休校中に「勉強について不安を感じた」と回答した生徒の割合は、全国・県平均を10%～15%上回り、「計画的に学習できた」と回答した生徒は全国・県平均を5%～10%下回る。

本校の3年生は、学力調査において国・数ともに県・全国平均と同程度から上回る状況であることや、生活習慣が確立している生徒が多く、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が高いこと等がわかりました。

また、「いじめはどんな理由があってもいけない」・「学校が楽しい」と感じている生徒の割合も県や国と比較して高い一方で、「自分の思っていることや感じていることを上手に表現する力」に課題があることもわかりました。

学習面につきましては、「自分で計画を立てて勉強をしている」・「各教科の学習は大切である」と回答した生徒の割合が高く、多くの生徒が前向きに計画的に学習に取り組んでいるなどの良さとともに、昨年度までは学校の授業におけるICT機器の活用が非常に少なかったことなどの課題も明らかになりました。また、コロナ禍の中、臨時休業等により多くの生徒が不安を感じ、計画的な生活ができなかったという実態も見えてきました。

本校では、本年度の校内研究において「主体的・対話的で深い学びの実現 ～授業改善と学級づくりを通して～」を研究主題に掲げて、日々の授業や生徒の学校生活をよりよいものにするよう学校体制で実践的な研究に取り組んでいます。今回の調査結果を全教職員で共有し、日々の授業の更なる改善に結びつけていこうと考えています。また、授業におけるICT機器の効果的な活用や、生徒の表現力の育成、さらにはコロナ禍における家庭学習への支援のあり方などについて、より一層の工夫をして参りたいと考えております。

今後も西中学校教育の推進に向け、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



甲府市立西中学校

〒400-0035 甲府市飯田五丁目13-1

TEL 055-222-1378 FAX 055-222-1374